



精神神経症状

知っておきたい
漢方4処方



体力中等度の人で、
神経過敏で興奮しやすく、
怒りやすい、イライラする、
眠れない*

虚弱な体質で神経がたかぶるものの次の諸症
神経症、不眠症に

54 ツムラ抑肝散
エキス顆粒(医療用) ヨク カン サン (薬価基準収載)

体質虚弱な人で、やせて顔色悪く、
神経過敏あるいは精神不安などを
訴える場合*



下腹直腹筋に緊張のある
比較的体力の衰えているものの次の諸症
神経衰弱、性的神経衰弱に

26 ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯
エキス顆粒(医療用) ケイ シ カ リョウ コツ ボ レイ トウ (薬価基準収載)

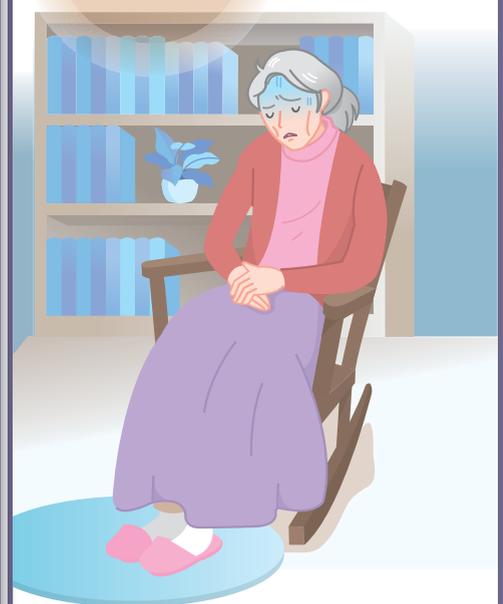
抑肝散に比べ、より体力が低下して
症状がより慢性化した場合*



虚弱な体質で神経がたかぶるものの
次の諸症
神経症、不眠症に

83 ツムラ抑肝散加陳皮半夏
エキス顆粒(医療用) ヨク カン サン カ チン ビ ハン ゲ (薬価基準収載)

体質虚弱な人が、顔色が悪く貧血気味で、
精神不安、心悸亢進、不眠などの症状を
訴え、微熱のある場合*



虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症
**神経症、精神不安、
不眠症に**

137 ツムラ加味帰脾湯
エキス顆粒(医療用) カ ミ キ ヒ トウ (薬価基準収載)

*使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

抑肝散は「認知症疾患診療ガイドライン2017」に掲載されています。(2C)
(日本神経学会監修「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編)

ツムラ抑肝散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

虚弱な体質で神経がたかぶるもの次の諸症:
神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体力中等度の人で、神経過敏で興奮しやすく、怒りやすい、イライラする、眠れないなどの精神神経症状を訴える場合に用いる。
1) おちつきがない、ひきつけ、夜泣きなどのある小児。
2) 眼瞼痙攣や手足のふるえなどを伴う場合。
3) 腹直筋の緊張している場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれることがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ桂枝加竜骨牡蛎湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているもの次の諸症:
小児夜尿症、神経衰弱、性的神経衰弱、遺精、陰萎

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体質虚弱な人で、やせて顔色悪く、神経過敏あるいは精神不安などを訴える場合に用いる。
1) 陰萎、遺精などを訴える場合。
2) 易疲労感、盗汗、手足の冷えなどを伴う場合。
3) 腹部が軟弱無力で膀胱に大動脈の拍動を触知する場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ抑肝散加陳皮半夏エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

虚弱な体質で神経がたかぶるもの次の諸症:
神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

比較的体力の低下した人で、神経過敏で興奮しやすく、怒りやすい、イライラする、眠れないなどの精神神経症状を訴える場合に用いる。
1) 抑肝散に比べ、より体力が低下して症状がより慢性化していることが多い。
2) おちつきがなく、ひきつけ、夜泣きなどのある小児。
3) 眼瞼痙攣や手足のふるえなどを伴う場合。
4) 腹直筋の緊張している場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれるおそれがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症:
貧血、不眠症、精神不安、神経症

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体質虚弱な人が、顔色が悪く貧血気味で、精神不安、心悸亢進、不眠などの精神神経症状を訴え、微熱のある場合に用いる。
1) 下血、吐血、鼻出血などを伴う場合。
2) 盗汗、全身倦怠感、食欲不振などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) サンシ

*使用目標=証 監修: 大塚恭男、花輪壽彦(北里大学)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 副作用発生状況の概要 副作用発現頻度調査(2012年10月~2014年3月)において、3,141例中、136例(4.3%) 162件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1) 重大な副作用 1) 間質性肺炎(頻度不明): 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) 偽アルドステロン症(頻度不明): 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 3) 心不全(0.1%未満): 心不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、体液貯留、急激な体重増加、心不全症状・徴候(息切れ、心胸拡大、胸水等)が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 4) ミオパチー、横紋筋融解症(頻度不明): 低カリウム血症の結果として、ミオパチー、横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、筋力低下、筋肉痛、四肢痙攣・麻痺、CK(CPK)上昇、血中及び尿中のミオグロビン上昇が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 5) 肝機能障害、黄疸(頻度不明): AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	0.1~5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}		発疹、発赤、痒疹等
肝臓	肝機能異常	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等	
精神神経系	頻眠	
その他	低カリウム血症、浮腫、血圧上昇、倦怠感	

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2016年6月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒疹等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2013年3月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等があらわれるおそれがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等

(2013年3月改訂)

含有製剤の長期投与(多くは5年以上)により、大腸の色調異常、浮腫、びらん、潰瘍、狭窄を伴う腸間膜静脈硬化症があらわれるおそれがある。長期投与する場合には、定期的にCT、大腸内視鏡等の検査を行うことが望ましい。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 3) 腸間膜静脈硬化症: 長期投与により、腸間膜静脈硬化症があらわれることがある。腹痛、下痢、便秘、腹部膨満等が繰り返されたり、又は便着血陽性になった場合には投与を中止し、CT、大腸内視鏡等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。なお、腸管切除前に至った症例も報告されている。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、尋麻疹等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、腹痛、下痢等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

(2018年2月改訂)

■ 用法及び用量: 通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。
■ 日本標準商品分類番号: 875200 ■ 薬効分類名: 漢方製剤 ■ 取扱い上の注意: (貯法) しゃ光・気密容器 / (使用期限) 容器、外箱に表示
■ 製造販売会社: 株式会社ツムラ
・ 組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与、臨床検査結果に及ぼす影響、その他の注意)、包装、関連情報(承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2014年5月制作)
(2018年2月改訂)

PSD008 (審)